

本稿は、2006年6月13日に関係者向けに通知した資料を簡略にしたものです。



次世代 RTGS プロジェクト通信 創刊号

2006年10月16日
日本銀行決済機構局

— 目 次 —

1. 発刊の目的 (p.1)
2. プロジェクトの進め方 (p.2)
 - ・仕様等の開示、各種テストなどのスケジュール観をお伝えします
3. 仕様等（暫定版）の開示 (p.3)
 - ＜BOX＞ 新機能（優先度指定と待機順序変更）の運用イメージ (p.4)
4. 市場慣行の検討のお願い (p.3)
 - ＜参 考＞ 次世代 RTGS 関連資料 (p.5)

1. 発刊の目的

次世代 RTGS は、わが国の大口資金決済全体の安全性、効率性の一段の向上を狙いとして、本年2月にスタートした日銀ネット当預系の新プロジェクトの総称です。このプロジェクトは、①日銀当座預金上の RTGS 処理に流動性節約機能を導入すること、②現在、民間決済システム（外為円決済制度、内為制度）を通じて時点ネット決済で処理されている大口資金取引も流動性節約機能を備えた日銀当座預金上で RTGS 処理できるようにすること、を二つの柱としており、2011年頃までを目処にプロジェクト全体の完成を展望しています。

次世代 RTGS は、日本銀行のみならず、民間決済制度・システムの変更を伴う裾野の広いプロジェクトです。その目指す効果が十分に発揮されるためには、取引先金融機関等や民間決済システム運営主体など、決済業務の企画・運営やシステム開発に携わる方々はもちろんのこと、関連する市場慣行の整備をご検討いただく市場関係者の方々を含めて、多くの関係者のご理解とご協力が不可欠となります。

日本銀行は、このように息の長い、そして幅広い関係者のご協力を必要とする大型プロジェクトの運営主体として——自らが開発に全力を尽くすとともに——、関係者の方々の取り組みを支援する一つの工夫として、本通信を発刊することにしました。

本通信では、開発の節目節目を捉えながら、関係者のシステム対応や運用イメージの形成に役立つ情報をお伝えしていく考えです。決済業務、システム開発をはじめ、資金繰りや予算管理など幅広い部署の担当者、あるいは経営層の皆様方にもご関心を持っていただける内容を盛り込んでいければと思います。現在想定している本通信の内容を具体的に整理すると以下ようになります。

(1) スケジュール観

プロジェクトの進捗状況のほか、今後の作業イメージをお示しします。日本銀行からの通知類の配布や各種テストの予定等を前広にお伝えすることで、関係者ご自身のシステム開発や市場慣行の議論に一定のスケジュール観を持っていただけることを期待しています。

(2) 新機能の活用、運用上のヒント

流動性節約機能の効果は、参加者の顔ぶれや決済事務のあり方次第で異なってきます。このため、日銀ネット利用先における流動性節約機能の利用に関する判断のほか、そのもとでの適切な決済行動や市場慣行の検討を深めていただく際の「ヒント」となりうる参考情報をお示ししていきます。たとえば、日銀ネットの仕様を検討した際に日本銀行が想定していた新機能の利用イメージや運用上の留意点、各種テストの検討・実施状況、関連研究の紹介などの掲載を考えています。また、皆様から頂戴したご質問やご意見のうち代表的なものを取り上げ、日本銀行の考え方をお示しすることで、皆様方の理解深耕に役立てていただけることを期待しています。

本通信では、日銀ネット利用先や市場関係者のご要望も踏まえ、できるだけ前広な情報提供を心がけていきます。ただし、検討・開発の進捗に応じ、その内容には変更がありうることを、あらかじめご了承下さい（仮に変更が生じた場合には、その都度お知らせします）。

2. プロジェクトの進め方

次世代 RTGS は、昨年 11 月に実施した市中協議（＜参考＞参照）の際に連絡したとおり、段階的な対応を予定しています。具体的には、流動性節約機能の導入と外為円決済取引の完全 RTGS 化（第 1 期対応）は 2008 年度中を、大口内為取引の RTGS 化（第 2 期対応）は 2011 年頃を実現の目処としています。当面の間、第 1 期対応の進捗状況や先行きのスケジュール観をお知らせしていきます。

第 1 期対応は、2008 年度中の実現に向け、現段階では 2008 年度入り後早期の利用希望先による総合運転試験（RT）の開始を目

標に作業を進めています（大きなスケジュール観は別添をご参照下さい）。以下、やや詳しく説明します。

現在、日本銀行は、第 1 期対応に関する日銀ネットの業務要件やこれを実現するためのシステム仕様の検討・検証を進めており、今般、現段階で想定している日銀ネット仕様等の暫定版を作成し、開示することとしました（後述）。今後、年内を目処にこうした仕様等を最終的に確定したうえで、正式に通知する予定です。

一方、CPU 接続（TCP/IP プロトコルによる CPU 接続に限ります）の利用希望先に対しては、本年の秋頃を目処に新設電文のレコード・フォーマットの概要説明を行ったうえで、年明けに仕様書を開示することを考えています。また、開発作業の終盤となる 2008 年入り後には、これらの希望先を対象にオンライン接続試験の実施を予定しています。本試験では、利用先が開発した CPU 接続やファイルアップロード・ダウンロード機能の対象電文について、実際に日銀ネットとの間で送受信を行うことで、その正当性を確認していただきます。したがって、本試験の参加に向け所要の準備方よろしくお願いします。

なお、次世代 RTGS の運用開始までに TCP/IP プロトコルによる CPU 接続の開始を新たに希望される場合には、2006 年度中を目途に所要の審査・手続を開始する必要がありますので、あらかじめご承知おき下さい（審査・手続の詳細は「日本銀行金融ネットワークシステムコンピュータ接続利用案内（TCP/IP 編）」をご参照下さい）。

こうしたオンライン接続試験や RT については、2007 年の夏頃を目処にその概要をお示しする予定です。このうち、RT の概要策定に当たっては、RT をより実践的なものとするため、市場慣行の検討状況も踏まえながら、関係者の方々と意見交換を行っていきたいと思います。

3. 仕様等（暫定版）の開示

日本銀行は、本年2月に次世代RTGSに着手する際にお示しした「次世代RTGSの枠組み」（＜参考＞参照）に沿って、日銀ネット仕様等の検討を重ねている過程にあります。関係者におけるシステム対応や市場慣行の検討作業等が円滑に行われるよう、このほど日銀ネットの仕様等の暫定版を作成し、開示しました。皆様からのご意見等やその後の検討次第では変更がありえますが、想定される準備作業の叩き台としては十分ご活用いただけるのではないかと考えていますので、是非ご覧下さい。

また、新機能のうちでも利用方法等の照会を受けることが多かった、支払指図に優先度を付す機能（優先度指定機能）と、待ち行列に待機した指図を待ち行列内で並び替える機能（待機順序変更機能）について、次頁で日本銀行が想定している運用イメージ等を説明します。こうした点も参考に、これら機能の活用についてもご検討いただければと思います。なお、必ず以下のイメージどおりに運用していただきたいとの趣旨ではありませんので、念の為申し添えます。

4. 市場慣行の検討のお願い

プロジェクト構想の公表時から申し上げてきたように、次世代RTGSのもとでの決済の円滑な運営の確保と流動性節約機能の効果的な活用のためには、参加者や市場関係者における適切な決済行動や市場慣行の検討がたいへん重要であると考えています。ただしそれは、現行RTGSと全く別の決済行動や市場慣行が必要ということではありません。この点、この2月に市場慣行の検討をお願いするため短期金融市場取引活性化研究会を訪問した際には、検討時の参考として、「決済進捗の確保」、「流動性節約機能の有効活用」、「システムの安定運行の確保」を切り口に、日本銀行が重要と考えて

いる点や論点となりうる点について、概略以下のような説明をさせていただきました。

- ・「決済進捗の確保」という観点からは、まず流動性節約機能を備えたRTGSは、それだけでRTGSに特有の流動性調達コストの問題を完全に解消するものではないとの理解が重要です。このため、現行RTGSの円滑な運営に大きく貢献している市場慣行の枠組み（決済タイミングに関する取り決めや、これに基づく決済時間帯等の設定・遵守など）や、これを踏まえた各参加者における適正な流動性の確保、決済進捗の管理といった能動的な決済行動は引き続き有益かつ重要であり、その他の観点からみて、これらを修正する必要があるかどうかを検証していくことが考えられます。なお、支払指図の投入前にあらかじめ確保しておく流動性の水準は、最終的にはRTを通じて見極めていただくことを考えています。
- ・「流動性節約機能の有効活用」という観点からは、専用口座で決済することが望ましい取引の確認や、指図投入の工夫（同時決済が見込まれる指図を一定の決済時間帯に投入するなど）の検討が考えられます。また、前述の優先度指定機能において、「優先」指定の対象となる指図の種類についてもご議論いただければと思います。
- ・「システムの安定運行の確保」という観点からは、指図投入の極度の集中や指図の待ち行列への過度の待機を回避するような運用（指図投入ペースの平準化など）について、ご検討をお願いする可能性があります。今後、市場慣行の検討状況や

新機能（優先度指定と待機順序変更）の運用イメージ

(1) 優先度指定機能

参加者は、自らの支払指図について、「優先」か「通常」の指定を行うことができます。「優先」指定の指図が、待ち行列に待機する場合には常に「通常」指定の指図の上位に待機することとなります。二者間同時決済機能は待ち行列の上位から探索を開始し、決済可能な組み合わせが見つかった時点で探索を取り止めますので、待ち行列の上位にあるほど先に決済される可能性は高いと言えます。ただし、たとえば「優先指定の指図が決済されない限りは通常指定の指図は決済されない」といった仕様にはなっていません。したがって、「優先」指定だからといって常に「通常」指定の指図よりも先に決済されることが保証されているわけではありません。

こうした機能を設けた理由は、主に決済管理の効率化にあります。すなわち、①市場取引や顧客取引など様々な種類の取引が混在して待ち行列に待機していくことが予想される中、たとえば取引種類に応じて優先度を付すことによって、事後的に1本1本待機順序を変更することなく、あらかじめ特定のグループの取引を待ち行列の上位に待機させることが可能となる（結果的には優先的に決済される可能性も高まる）、②自己あるいは取引相手先の待ち行列に待機している大量の指図のうち「優先」指定の指図に絞って照会することで、相手方からの入金予測や、自己の指図の待機順序変更などの決済管理が行い易くなる、といった点を考慮しました。したがって、相手方の待ち行列で待機している自己向け指図の優先度も照会できるほか、待機順序変更により優先度が変わった場合には相手方にもその旨を通知する仕様としています。

上記のイメージに照らすと、「優先」指定の対象となる指図は、個別の参加先が独自に決定・運用するのではなく、市場参加者等にお

いて一定の取引種類に絞っておくなどの運用が適するのではないかと考えています。また、「優先」の対象があまりに多くなると、待ち行列の上位に待機される指図が非常に多くなり、決済管理の効率化が逆に難しくなることも予想されます。「優先」の適用範囲は、「管理可能な件数」に収まる程度が理想的と思われます。

(2) 待機順序変更機能

参加者は、自らの待ち行列の中の特定の指図を待ち行列の先頭ないし末尾に並び替えることができます。「優先」指定の指図は待ち行列全体の先頭か「優先」指定の指図群の最下位に、「通常」指定の指図は待ち行列全体の先頭か末尾に並び替える、といった4パターンを想定しています（なお、「通常」指定の指図を待ち行列全体の先頭に並び替えた場合、優先度は「優先」に変更されます）。こうした機能を活用することにより、急に決済の緊要性の高まった指図や決済時限が迫ってきた指図を待ち行列の先頭に移動し、必要があれば流動性を追加して決済を進捗させる、あるいは相対的に決済を急ぐ必要なくなった指図を下方に移動させることで他の決済の進捗を促す、といったことが可能となると考えています。

ここでイメージしているのは、優先度指定機能とは異なり、参加者が、自らの待ち行列で待機している特定の指図の待機順序（あるいは優先度）を、何らかの事情で事後的に変更する必要が生じた場合です。こうしたケースはあくまでも臨時対応であり、日中頻繁に必要となるオペレーションではないとみられること（指図件数の多い先では、肌目細かな並び替えを要請されても対応し難いこと）から、並び替えのバリエーションは上記の4パターンで十分ではないかと考えています。

日本銀行におけるさらなる検討等も踏まえ、必要に応じて、ご相談、ご協力をお願いしていきたいと思います。

短期金融市場取引活性化研究会や民間決済システムの運営主体におかれては、上記の論点や仕様等（暫定版）も参考にしつつ、市場慣行の検討を進めていただければと思います。日本銀行としてもそうした検討を支援していきます。なお、こうした過程で、検討結果がシステム仕様等にも影響を及ぼす可能性もあるため、秋口を目処に市場慣行の検討の方向観や骨子の確認をお願いできればと思います。またその後は、来年夏頃を目処に日本銀行が取りまとめる予定のRTの概要等への反映も意識しつつ、具体化を進めていただきたいと思います。

以 上

<参考>次世代 RTGS 関連資料

日本銀行「日本銀行当座預金決済における次世代 RTGS の展開」（2005 年 11 月）

日本銀行「日本銀行当座預金決済における次世代 RTGS の展開 — 関係者のご意見を踏まえて —」（2006 年 2 月）

千田英継「日本銀行当座預金決済における次世代 RTGS の展開の概要」、『証券決済制度改革推進フォーラム 2006』、日本証券業協会（2006 年 2 月）

今久保圭「修正 RTGS 方式の経済効果」、「効率的な日中流動性の考え方」、『決済システムレポート 2005』、日本銀行（2006 年 3 月）

全国銀行協会「大口決済システムの構築等資金決済システムの再編について」（2004 年 3 月）

次世代RTGS(第1期)のスケジュール観

現在

本資料は、2006年6月時点での予定です。

